

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3874000353
法人名	社会福祉法人 御荘福祉施設協会
事業所名	グループホーム みしょうの里
所在地	愛媛県南宇和郡愛南町御荘平城2020番地
自己評価作成日	平成28年6月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年6月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

古い民家を改築して造られているため、施設化しておらず、利用者には、馴染み深く、どこか懐かしい場所を感じながら生活されています。各お部屋からは、畑の作物や、庭の季節の花を眺めることができ、利用者へ安らぎと安心感、癒しを与え、表情も豊かであると思います。どこのご家庭でも、当たり前を送っている日常をともに過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

玄関先にテーブルと椅子を置いており、天気の良い日には外で食事をすることがある。訪問調査時、玄関に七夕の笹飾りを飾り、家族が持参したカセットテープを流して一緒に歌ったり聞いたりして過ごしていた。民家改修型の事業所であり、共用空間はスペースに制限があるが、廊下の手すりは両手で持つことができ転倒する方は少ない。
 法人の管理栄養士が立てた献立に沿って食事を作っているが、自家野菜等を利用し、臨機応変に変更して旬の味を楽しめるよう支援している。利用者と一緒に食材の買出しに出かけたり、調査訪問時には、エプロンを着けて台所に立つ利用者の様子が見られた。誕生月には赤飯を炊いてお祝いをしている。
 利用者から外出の希望が多く、育ったところや自宅に行ってみることもある。お花見は職員の手作り弁当を持って出かけており、利用者の楽しみごとになっている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームみしょうの里

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

北原恵理

評価完了日

28年 6月 20日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を基に、ご利用者一人ひとりに、その人らしい安心した生活を送っていただけるような支援を常に心掛け、ミーティングや職員会議で話し合い、共有している。 (外部評価) 「日々の暮らしの中で語り合い、その人らしい生活の支援」という理念をつくっており、職員会議で理念について話し合い共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 月に一回、町内の保育園に来訪していただいている。また、こちらから保育所を訪問し、運動会や生活発表会を見に出かけたりしている。たくさんの園児と交流することを、ご利用者も楽しみにしている。夏祭りやクリスマス会等のイベントには、事前に案内のチラシを地域に配り、大勢の方に来訪していただけるよう声かけをしている。また、避難訓練にも協力していただき、その際には注意点や気づいたことを言っただけなので参考にしてはいる。 (外部評価) 近隣の2ヶ所の保育園と交流を持ち、行き来してふれ合っている。自治会に加入しており、広報が届き地域の情報を知ることができる。近所へは毎月、利用者職員で法人機関紙「自在」を配布している。地方祭では、獅子舞や神輿等、8団体の訪問があり、五ッ鹿踊りは一緒に歌う利用者もいる。畑で採れたすいかは、隣人におすそ分けをしたり、保育園との交流会時にスイカ割りを楽しんだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議や地域との交流のなかで、ご利用者との交流を深め、認知症についての理解や支援の方法等、以前よりも浸透してきているのではないかと感じられる。また、要望があれば、実習生やボランティアを受け入れている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 二ヶ月毎の運営推進会議のなかで、ご利用者の状況や、日々の活動内容、行事等を報告している。新入居者が居られるときには、その方も参加され、紹介している。地域の方からは、質問や意見も多くあり、サービス向上に活かしている。</p> <p>(外部評価) 決まったメンバーが会議に参加しており、地域の方が司会をしてくれている。避難訓練を行った際には、「センサーライトを付けてはどうか」「動けない利用者をシートで避難させてはどうか」等と意見や提案があった。</p>	<p>来年度、事業所は移転することになっているが、移転後も地域との関係づくりに向けて会議を活用してほしい。いろいろな立場の方の理解や協力を得られるような会議に取り組んでほしい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に町担当者の方にも毎回出席していただき、意見等求めている。また、各グループホーム、小規模多機能の管理者や職員と、地域包括支援センターの職員との交流や話し合いを、年に数回開催し、それぞれの実情を話し合っで交流することで、協力関係を築けている。</p> <p>(外部評価) 年4回、町内のグループホーム、小規模多機能事業所、地域包括支援センター職員が集まり「スマプロ会」を開催しており、交流を図ったり、勉強会を行っている。最近では、警察署の方による「行方不明の方が出た場合の対応」についての講演があった。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 拘束、虐待となる事例はないか、また、不適切な言葉やケアはないか等、毎月の職員会議のなかで身体拘束高齢者虐待防止について話し合いを行い、正しく理解したうえでケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 法人内研修時に勉強したり、毎月の職員会議時には、法人作成の資料をもとに、事例検討や話し合いを行っている。「ちょっと待ってください」と言いがちであるが、「～なので」と理由をきちんと説明することに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員会議のなかで、身体拘束高齢者虐待防止について話し合いをもっている。また、母体の特養で職員研修会に参加し、学ぶ機会を持っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 母体特養での職員研修会に参加し、学ぶ機会を持ち、知識を深めている。ご利用者3名の方に成年後見人や保佐人を活用している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用契約に関する説明書を見ていただき、疑問点や不安、心配な点をお聞きしながら説明をおこない、理解、納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご利用者については、日頃の言動から、思いや不安、心配なことをくみ取り、その都度話し合っている。ご家族へは、面会時や電話等で、意見や要望等、何でも思ったことを伝えていただけるよう、常に声をかけている。しかし、大半の方は、「このままで良いです。」「よくしてもらっているので何もありません。」と言われることが多い。直接、職員に言いづらいことは、上司へ伝えている方もいて、意見を受け止め、改善できるよう努めていきたい。 (外部評価) 毎日の本人の言葉や出来事を書いたメモを1ヶ月まとめ、家族に送付しており、家族からは「生活の様子が解って楽しみにしている」と好評である。家族から意見があった場合は、職員会議時に共有して気を付けるようにしている。「帰りたい」思いが強い利用者には、家族の協力を得て、帰宅や外出、面会の機会を作っており、徐々に落ち着いてきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			月1回の職員会議に、施設長と担当事務職員も同席し、話し合いをおこなっている。また、年2回の人事考課において、職員の自由な意見、要望等を聞く機会を設けている。	
			(外部評価)	
			年2回の人事考課では、職員は自己評価を実施し、又、面談等で意見を自由に出せるような体制を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			キャリアパスの導入や人事考課の活用及び個別の面談をおこない、職員の意見等を聞き、状況を把握し、働きやすい職場環境や条件に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			母体特養での職員研修会や南予地区研修会、町主催の研修会等に参加し、知識や技術を学び、資質の向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			年に4回程度、町内のグループホームや小規模多機能施設、地域包括支援センターの職員による交流会や勉強会を行っている。また、そのうちの2回は、警察署生活安全課の職員を招き、利用者の行方不明時についての勉強会や、交流を図り、グループホームの実情を知っていただける機会となった。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			事前に自宅や施設を訪問し、ご利用者本人やご家族から話を伺う機会を設けている。ご利用者の様子や思いを職員へ伝達し、全員で受け止める努力をしている。不安や心配な様子であれば、日中2～3時間ほど、ホームで過ごしていただくことで安心感へと繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前にご家族からの心配事や不安な事、要望等に耳を傾け、ご家族の思いを真摯に受け止め、対応していくよう心掛けています。気楽に何でも相談していただけるよう雰囲気作りに努めています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、ご本人やご家族の思いや状況等を把握し、必要とする支援を見極めるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 今までの人生のなかで培ってこられたことに対して敬意を払い、教わることも多く、そういった場面では必ず感謝の言葉を伝えている。また、共に楽しく穏やかに過ごしていただけるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族と情報交換をしながら、ご家族の思いを把握し、利用者本人との絆を大切にしている。今後も良好な関係を築きながら、思いに応えられるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知人と一緒にお花見や忘年会へ外出したり、行きつけの美容室へ通ったりするご利用者もおられる。また、姉妹や孫が面会に来られ、それぞれの居室でゆっくりと過ごされている。 (外部評価) 家族来訪時には、お茶を準備する等して、居室でゆっくり過ごせるよう気配りをしている。昔なじみの方が、花見や忘年会に誘ってくれて出かけたりする。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの性格や特徴を把握し、ご利用者が居間に集まって交流し、関わりを持てるよう支援している。時々、小さなトラブルが発生した時は、職員が間に入り、利用者同士の架け橋となり、仲をとりもつよう配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所された方のご家族が、「近くに来たので寄りました。」とホームへ足を運んで来てくださり、近況を伺ったり、亡くなられた後も野菜等を持ってきていただいたりしている。また、こちらからも訪ねていったり、ご本人とも会い、お話をしたり、関係を大切にしている。ご家族自ら相談に来られたり、経過を報告される方もおられる。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々のかかわりのなかで、ご利用者一人ひとりと話をしたり、表情や行動、態度からもご本人の思いや気持ちをくみ取れるよう努めている。何を思い、考え、求めているのか、見過ごしてしまいがちであるため、ご本人としっかり向き合い、意向に添えるよう努めていきたい。 (外部評価) 本人から聞き取った意向や要望は介護記録に記入し、職員会議時には、変化のあった部分について話し合っている。気になることは申し送りノートに記入し、職員間で共有している。	日々の中で利用者の思いや意向を探るような取り組みをすすめて、得た情報を最期までその人らしい暮らしを続けるための支援につなげてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用されるまでに自宅や施設等を訪問し、ご本人やご家族、施設職員より、これまでの生活歴や環境、サービス利用の経過等を聞き取り、把握に努めている。また、職員間で情報を共有できるよう話し合いをおこなっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ご利用者一人ひとりの心身の状態や生活リズムを把握し、好きなことや得意なこと、できることをしていただき、喜びや満足感をもって、その人らしい生活が送れるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 面会時や電話等で、ご家族からの希望や要望を伺い、利用者ご本人の思いをお聞きし、介護計画に反映できるよう話し合い、作成したり、毎月のモニタリングをおこなっている。しかし、3ヶ月毎の見直しで、内容的にはほとんど変わりながないことが多い。</p> <p>(外部評価) 介護計画に沿ってケアサービス提供票を作成しており、○×でモニタリングを行い、3ヶ月ごとの見直しにつなげている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別のファイルに日々の様子を毎日記録している。また、サービス内容の実践、評価等については、色分けし、見やすいようにしている。介護計画の見直し時には、24時間生活変化シートを活用している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ご本人やご家族の状況や要望に添ったサービス内容になるよう努めてはいるが、3ヶ月毎の見直しのため、ほとんど状態も変わらず、同じサービス内容となってしまうことが多い。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議のなかで、地域の方々と交流できる場や、行事等を伺ってはいるが、参加することは少なく、まずは、もっと地域資源の把握に努める必要がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) ご本人及びご家族の希望するかかりつけ医で受診を行っている。受診時には、ご家族に対応していただいているが、都合がつかない時や、緊急時は職員で対応することもある。必要時には、看護職員が事前に上申したり、ご家族に医師への連絡状を預ける等、連携を密にしている。	
			(外部評価) かかりつけ医への定期受診のほかに、年2回、精神科医が全体的に診てくれている。歯科医の口腔指導を受けている利用者もある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護職員を配置し、ご利用者の健康状態や状態の変化に気づいた時は、連絡、報告、相談し、指示を仰いでいる。母体特養の看護師も週に一度は来訪し、ご利用者の状態を把握し、近況や状態報告をする等して、体制を整えている。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、ご利用者の情報提供や支援方法に関する情報等、医療機関へ提出している。また、退院前には、管理者、看護職員、ご家族や医療スタッフ、地域連携室職員との話し合いを行い、連携を図っている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化に伴う意思確認書の作成、説明をおこない、同意をいただいている。ご本人やご家族の意向を早い段階でお聞きし、ホームでの対応可能なことや、困難なこと等、説明させていただいている。	
			(外部評価) 入居時には、「重度化に伴う意思確認書」にて、利用者や家族の意思確認を行っている。現在は、「重度化したら病院に」という希望が多いようだ。看取り支援の希望があっても、現在は、看護師が非常勤のため対応することに難しさがあるが、今後は、体制を整えたいと話していた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年に1回、消防署の協力を得て、行われる母体特養での救急救命講習に参加し、実践している。また、南予地区研修会で開催された応急手当方法や連絡の対応等を学ぶ機会もあるが、突発的に起こる事故や急変に対して、慌てることも多いため、日頃からの心構えや訓練等、更なる努力が必要である。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回(日中・夜間)火災想定避難訓練と消火訓練を実施している。また、地震や津波による災害時の避難訓練もいろいろな避難経路を想定している。地域の方の協力や消防隊員から講評していただき、次回に活かせるよう努めている。 (外部評価) 今年4月の熊本地震での揺れには、布団で頭を守ったり、テーブルの下に入って身を守る等した。津波発生時には近くの高台に避難することになっている。消防署の意見から、火災想定避難訓練時には、火災報知器を実際に鳴らして、職員や地域の方も自宅から駆けつけてもらった。地域の方には、職員の声かけのもと、避難誘導を行ってもらった。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ご利用者への言葉かけやプライバシーに配慮した対応に心掛けているが、言葉のトーンや言い方によって、きつく感じたり、自尊心を傷つけているのではないかとと思われることもあるため、職員と話し合っている。 (外部評価) 利用者の中には「名前でご呼んでください」と言われる方もあり、本人の希望を重視している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご利用者の思いや希望をくみ取りできる範囲で応えられるよう努めている。また、利用者ご自身が、衣類の選択や髪型等、自己決定できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 起床時間や食事時間等一人ひとりのペースに合わせ、希望に沿って支援している。就寝前も好きな時代劇や歌番組を見られたり、日中も利用者ご本人の希望により、自室で休んだり、それぞれに思い思いに過ごせるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご本人の好みの色やデザインに合わせてご家族が衣服を持参されたり、一緒に外出し、化粧品を買ってこられたりしている。また、行きつけの知り合いの美容室へ行き、髪を染めたり、カットをする等、お洒落ができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 裏の畑で作っている野菜のお世話や収穫を一緒におこない、旬の食材を提供し、食への関心や喜び、楽しみをもっている。利用者の嚥下機能に合わせた食事形態の工夫や季節の食材や郷土料理の提供をおこない、食事を楽しむことができるよう支援している。 (外部評価) 法人の管理栄養士が立てた献立に沿って食事を作っているが、自家野菜等を利用し、臨機応変に変更して旬の味を楽しめるよう支援している。利用者と一緒に食材の買出しに出かけたり、調査訪問時には、エプロンを着けて台所に立つ利用者の様子が見られた。誕生月には赤飯を炊いてお祝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 母体特養の管理栄養士が栄養のバランスを考えた献立を作成し、それを基に食事を提供している。一人ひとりの状態に合わせ、刻みやミキサー食、お粥等の食事形態の工夫をしている。食事、水分摂取量は、毎食確認し、栄養の偏りや水分不足に気を付けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、声かけを行い、口腔ケアを促している。歯ブラシ、舌ブラシ、スポンジブラシ、歯磨きティッシュを使用し、一人ひとりに合った口腔ケアを行っている。定期的に嘱託医の歯科医師の往診で口腔内の点検をいただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>排泄の時間や、回数をチェックし、一人ひとりの排泄について把握している。尿意の訴えないご利用者は、定期的に声をかけ、トレイ誘導をおこなっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>排泄チェック表で排泄パターンを把握している。夜間は、転倒の心配がある利用者やトイレまで距離がある居室の方には、居室にポータブルトイレを置き支援している。夜間もトイレでの排泄を希望する方には、職員が声をかけて見守りながら支援している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>水分補給や食事、おやつに繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。自主的に運動をされている利用者もおられる。便秘薬を服用している利用者も多い。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入浴前にはバイタル測定をし、日中の様子や状態を観察したうえで、ご本人へ希望を確認し、入浴していただいている。入浴剤や好みの湯加減でリラックスしていただけるよう支援している。ご利用者の体調の状態により入浴回数を調整し、清潔保持できるよう清拭を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>基本は、2日に1回入浴できるよう支援しているが、夏場には毎日入浴する方も支援している。車いすの利用者には、職員2人体制で介助して湯船で安定して温まれるよう支援している。入浴剤を使用している。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご利用者一人ひとりの状態を考慮し、日中の活動を促したり、自室で休息していただいている。夜間は希望により好きな時代劇や歌番組を見て過ごし、それぞれの時間に就寝し、安心してゆっくりと眠れるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬の処方せん等を個別に整理し職員が内容を把握できるようにしている。服薬時には、間違いが無いよう名前を呼び、確認をおこなってから服薬介助をおこなっている。症状の変化がみられた時は、看護職員へ報告し医師への指示を仰いでいる。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事の下ごしらえや洗濯物たたみ、草引き、掃き掃除等、できるお手伝いをさせていただくことで、役割がもて、張り合いや楽しみを支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ホーム周辺の散歩やドライブ、お花見、風車見学等には、お弁当を持参し、季節感を楽しみ、気分転換を図っている。ご家族と一緒に松山へ旅行に出かけたり、外食したり、お墓参りや自宅へ帰られたり等、協力していただき、利用者ご本人もとても喜ばれている。	
			(外部評価) 利用者から外出の希望が多く、育ったところや自宅に行ってみることもある。お花見は職員の手作り弁当を持って出かけており、利用者の楽しみごとになっている。来月は、他グループホームの夏まつりに参加する予定がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 少額のお金はホームでお預かりしているが、ご本人が管理しているご利用者はいない。近くの観自在寺を参拝する時にお賽銭を所持している程度である。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族や知人から電話がかかると、ご本人と通話していただいている。希望があれば職員からご家族に電話し、その後ご本人と代わり、通話している。また、ご家族へ思いを書いたお手紙を手渡し、ご家族からも喜ばれていた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>民家改修の施設であるため、共同スペースは狭く、トイレも2箇所しかないため、混雑することがあるが、譲り合っている。居室からは畑や花が見え、季節を感じられ、今まで住んでいた、慣れ親しんだ我が家の延長のような居心地の良い安心した暮らしをしていただけている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関先にテーブルと椅子を置いており、天気の良い日には外で食事をすることがある。訪問調査時、玄関に七夕の笹飾りを飾り、家族が持参したカセットテープを流して一緒に歌ったり聞いたりして過ごしていた。民家改修型の事業所であり、共用空間はスペースに制限があるが、廊下の手すりは両手で持つことができ転倒する方は少ない。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>居間を共有スペースとし、ほとんどのご利用者が日中は居間で過ごされていることが多い。狭いなかで時々ソファの座る位置等で利用者同士のトラブルがあるが、職員が間に入り話し合っている。また自室へ帰り、思い思いに過ごされている利用者もおられる。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族との思い出の写真を飾ったり、大事にしているお人形を持ってこられたり、好きなお花を飾っているご利用者もおられ、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>昼食後、居室で横になって庭を眺めたり昼寝する方が多い。職員が持参した花を飾っている居室があった。大切な人形を飾ったり、使い慣れたベッドやタンスを持ち込み使用している方もある。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>民家改修の施設であるため、トイレや廊下は狭く、段差もあるが、声かけ、見守り、一部介助したり等、一人ひとりに合った支援をおこなうことで、安全かつ自立した生活が送れるよう工夫し、支援している。</p>	